

## 「ESD」って何？

各関連資料をもとにまとめてみました。ご参考に。

ESDは Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な社会（開発）に向けた教育」というように訳されます。今年11月10～12日、名古屋市国際会議場で「ESDユネスコ世界会議」が開かれます。

### (1) なぜ今、ESDか？

世界中で経済開発が優先されてきたため、地球環境・貧富の差・人権・平和・エネルギー・食料などについて解決困難な課題が山積しています。ESDは、この克服のため2002年南アフリカ/ヨハネスブルグ・サミットで日本政府が提唱した「国連ESDの10年(2005～2014年)」で初めて登場した考え方です。



### (2) 地球の危機について

地球環境は、人間の活動により史上最悪の危機にあります。私たちのくらしや産業は生態系からの恵みによって成り立っているにもかかわらず、現代の生活は生態系に負の影響を与え続けています。その結果、生物の種の絶滅のスピードは過去とは比較にならない速さで進んでいます。

#### 世界の野生生物の危機

- ・ 遠い過去（6億年ほど前）の絶滅速度は、年間1～0.1種程度
- ・ 近い過去（100年前）から現在まで……100～1000倍以上の速度  
つまり人間は、たったこの100年間ほどで6億年前からの生物の種を大絶滅に追い込んでいるわけです。

#### 日本の野生生物の危機

わが国では、自然生態系の破壊や人為的採集などが原因で、植物の4種に1種、哺乳類の3種に1種、鳥類の5種に1種、爬虫類の3種に1種、両生類の3種に1種、淡水魚種の4種に1種が今や絶滅または絶滅の危機に瀕しています。

#### 愛知県の野生生物の危機

愛知県においても同様で、この40年間で、森林・原野・農地などが約69,000ha（名古屋市の面積の約2.1倍）も減少しました。また「レッドデータあいち2009」によれば絶滅の危機にある種は、哺乳類の全生息数の42.2%、鳥類の20.9%、爬虫類の26.7%、両生類の65.0%、淡水魚類の35.5%、昆虫類の2.6%、クモ類の6.6%、貝類の29.1%、維管束植物の27.6%、コケ植物の13.6%とされています。

短期間で急激に絶滅の危機に瀕する生き物が増大し、生物多様性の危機および生態系の低下が顕著にわかります。

私たち人間の生命は、生態系を構成する生き物たちによって支えられているのですから、「自分で自分の首を絞めている」というのが現況です。

### (3) 生態系について

生態系では、網の目のように数多くの生き物の生命が繋がっています。しかし、この網の目が人間の活動によって絶たれると、どんどん生態系の豊かさが低下していきます。

私たちが生命を保っていくには、少しでも生態系への負荷を減らす方法を考えていくしかありません。道路1本作る時でも、住宅1軒建てる時でも、買い物をする時でも、電燈をつける時でも、その行動が生態系にかかる負荷を少なくするよう考えていく必要があります。



### (4) ESDを考えよう！

以上の観点をもとに、持続可能な(sustainable)社会(=開発 development)に向け、一人ひとりがいろいろ学び体験し行動を起こすための、教育(education)の手法を見つけ出し発展させることが求められています。

それは、地域・市民団体・事業者・学校・農林水産業・国・地方自治体・マスメディアなどのネットワークのなかで進められていくことが必要です。

また、それぞれ個人が省エネルギーに気を配ったり、地産地消を心がけたり、身近な自然観察や地域の市民活動に参加することから始め、それにとどまらず、意識的にESDを推進していくことが重要です。

具体的には、地域のプロジェクトや課題に stake holder (ステークホルダー = 利害関係者・生活者) として積極的に対話や協働をしていくこと、政策づくりへの提言や意見書提出など行政機関への働きかけをしていくことなどです。

そして、最もこの恩恵を受けるはずの未来の担い手、若者や子どもたち、彼らと共に、この活動に参加していきたいものです。

～ 日本死しても天地は死せず

天地と共に 生きてる言動を以ってせよ

天地と共に 久しき二答えよ 田中正造 ～